

教室と教出を結ぶ

リンク



雨上がりの空にかかる虹

目次

新学習指導要領の特徴を踏まえた移行期における学習指導の留意点……	松浦 拓也	2
中学校理科 移行補助教材の扱いについて……		6
2019年度 年間指導計画案……		8
2020年度 年間指導計画案……		10

教育出版

新学習指導要領の特徴を踏まえた 移行期における学習指導の留意点

広島大学大学院教育学研究科 准教授
松浦 拓也

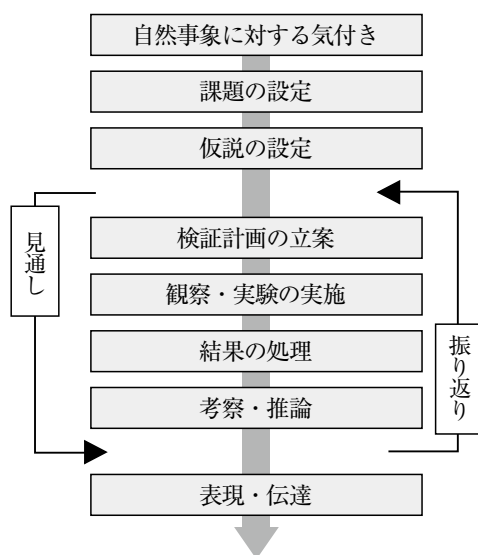
1 はじめに

平成29年3月に告示された新学習指導要領（文部科学省，2018a）では、「中学理科通信 リンク」（本通信）の2017年秋号で清原洋一主任視学官が述べられているように、全ての教科等の目標が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で再整理されている。中学校理科においては、理科の目標などが三つの柱で整理されるとともに、内容については、「知識及び技能」がアとして、「思考力、判断力、表現力等」がイとして示されている。ここで留意すべき点は、アには知識や技能が羅列されているのではなく、どのように知識や技能を身に付けるかを含めて示され、イには重視する学習の過程も含めて示されているということである。特に、イに含まれる学習の過程は、現行の学習指導要領では示されていなかった事項であり、移行期の段階から留意して取り組んでおくことが重要となる。よって、本稿では、内容のイに示された学習の過程の取り扱いを中心に検討することにする。

2 科学的に探究する能力と学習過程

平成28年12月21日の中央教育審議会答申（中央教育審議会，2016）の審議過程においては、資質・能力を育むために重視すべき

学習過程のイメージが、全ての教科において検討されている。理科においては、科学的に探究する過程を基盤とした学習過程及び各過程における資質・能力の例が示されている。以下の図は、学習過程の例として示されている内容のみ筆者が抜粋し、一部変更したものである。



（文部科学省，2018b:p.9より一部抜粋）

図 理科における学習過程のイメージ

無論、図に示された全て学習過程を、毎回の授業において実施することは困難である。よって、科学的に探究する能力を育成するため

には、年間指導計画や単元計画を作成する段階で、どの学習内容で、どのように取り扱うと効果的であると考えられるか、具体的な検討を行い、計画的に取り組む必要がある。

また、中学校理科の学習指導要領においては、各学年で主に重視する探究の学習過程が以下のように整理されている。

第1学年：自然の事物・現象に進んで関わり、その中から問題を見いだす

第2学年：解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する

第3学年：探究の過程を振り返る

現行の中学校理科の学習指導要領においても、分析・解釈は重点を置いて育成する科学的思考力として示されているものの、各学年での対応付けはなされていない。また、前述の図に示した学習過程と、重視する探究の学習過程を対応させると、第1学年は「自然事象に対する気付き」や「課題の設定」に、第2学年は「検証計画の立案」や「考察・推論」に、第3学年は「振り返り」に相当すると考えられる。科学的に探究する過程を大切にするということについては、これまでの学習指導要領においても述べられてきた事項ではあるものの、各学年において主に重視する過程が明確化されたことから、具体的にはどのような学習を想定すればよいのかについて、移行期の段階から検討、試行しておくことが大切ではないかと考える。よって、次項においては、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説理科編（文部科学省，2018b：以下、解説と略称）に示された学習過程の具体例に基づいて考えてみる。

3 学習過程の具体例

（1）第1学年

第1学年においては、第2分野の「（1）いろいろな生物とその共通点」のみ他の内容と

やや異なっており、「イ 身近な生物についての観察、実験などを通して、いろいろな生物の共通点や相違点を見いだすとともに、生物を分類するための観点や基準を見いだして表現すること。」となっている。このような内容項目のイに関連して、解説では次のように述べられている。

思考力、判断力、表現力等を育成するに当たっては、いろいろな生物の共通点や相違点を見いだし、それを基にして分類するなどして、問題を見いだし見通しをもって整理する力を養うことが重要である。

共通点や相違点に基づいて植物を分類できることを見いだして理解させる際には、例えば、同じ種類の植物であれば生育する場所などによって形や大きさに違いがあっても、花のつくりや葉脈の形状などに共通点があることに気付かせる。また、それらの共通点に基づいた分類表や検索表などを作らせ、その表を用いて、未知の植物がどの仲間分類できるかを考えさせることなどが考えられる。

このように、問題を見いだすためには、その前に共通点や相違点を見いだし、それらを基にして分類することの重要性が示されている。このため、「（1）いろいろな生物とその共通点」においては、植物と動物それぞれにおいて分類、共通点、相違点といった視点を基盤とした単元計画が重要となる。

一方、その他の三つの内容におけるイの記述形式は共通しており、例えば、第1分野の「（1）身近な物理現象」では「イ 身近な物理現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働き、音の性質、力の働きの規則性や関係性を見いだして表現すること。」となっている。このような内容項目のイに関連して、解説では次のように述べられている。

学習の導入に当たっては、例えば、光源が出た光を複数の鏡を使って反射させ設置した的に当てるなど、鏡に入射する光と反射する光との関係について、問題を見いだす活動などが考えられる。また、例えば、身近な事象として虹や水面に映った景色、日常生活や社会で活用されているものとして光ファイバーケーブルなどを示し、問題を見いださせるようにすることも考えられる。

このように、学習の導入における活動や提示する事象を工夫し、生徒が問題を見いだすことができるような学習過程を設定することが求められている。

(2) 第2学年

第2学年においては、四つの内容におけるイの記述形式は共通しており、例えば、第1分野の「(3) 電流とその利用」では、「イ 電流、磁界に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流の働き、静電気、電流と磁界の規則性や関係性を見いだして表現すること。」となっている。このような内容のイに関連して解説では次のように述べられている。

例えば、豆電球などの抵抗及び電源装置を入れた簡単な回路をつくらせ、その回路に流れる電流や抵抗に加わる電圧の測定などを行わせ、回路の作成の仕方、電流計や電圧計、電源装置などの基本的な操作技能を身に付けさせる。その上で、豆電球に流入する電流と流出する電流の大きさの関係を予想させ、それを調べる実験を計画して実行させ、その結果から規則性を見いだして表現させる活動などが考えられる。

課題を解決するための実験方法を考えるためには、当該内容に関する知識や技能も必要

となるため、ある程度学習が進んだ段階で、解決する方法を立案するような学習過程や単元計画が考えられる。

(3) 第3学年

第3学年においては、「(7) 科学技術と人間」及び「(7) 自然と人間」を除く四つの内容におけるイの記述形式は共通しており、例えば、第2分野の「(5) 生命の連続性」では、「イ 生命の連続性について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、生物の成長と殖え方、遺伝現象、生物の種類の多様性と進化についての特徴や規則性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。」となっている。このような内容項目のイに関連して、解説では次のように述べられている。

例えば、メンデルの交配実験の結果を分析して解釈し、子や孫の形質の表れ方には規則性があることに気付かせる。その際、染色体に関する図やモデルなどを活用して、その規則性は対になっている遺伝子が分かれて別々の生殖細胞に入ることによってもたらされることを取り上げる。その後、コインやカードなどを用いて交配のモデル実験を行わせて、規則性をもたらし仕組みを確認させることが考えられる。その際、交配のモデル実験における試行回数と得られる結果との関係に気付かせたり、モデル実験の操作や結果が何を意味するかなどを考えさせたりして、探究の過程を振り返らせることが考えられる。

また、第1分野の「(6) 化学変化とイオン」の場合、内容のイに関連して解説では次のように述べられている。

例えば、金属を電解質水溶液に入れる実験を行い、金属が水溶液に溶けたり水溶液中の金属イオンが金属として出てきたり

関連させて理解させることが考えられる。その上で、3種類程度の金属とその金属の塩の水溶液を用いてイオンへのなりやすさを比較する実験を計画し、見通しをもって観察、実験を行うことが考えられる。これまでの化学変化に関する学習の過程を踏まえて、イオンのモデルと関連付けて考えたり、得られた結果を表にまとめて分析したりして、金属のイオンへのなりやすさが異なることについて根拠を示して表現するとともに、探究の過程を振り返ることが考えられる。具体的には、考察が課題と対応しているか、根拠を基に結論を導いているか、他の物質ではどうなるかといった新たな問題を見いだしているかなどが考えられる。

このように、モデル実験を実施した後に、モデル実験の操作や結果が何を意味するのかについて考えさせたり、実験方法や考察が妥当であるか考えさせたりすることを通して、探究の過程を振り返らせるような学習過程が想定できる。振り返るという学習過程については、具体的にはどのようなことをすればよいのか想定することが難しいと予想されるため、解説に示されている例を参考にすることも有用である。

4 おわりに

新学習指導要領においては、中学校三年間で扱う知識・技能の変更は少ないものの、本稿で再確認したように、各学年で主に重視する探究の学習過程が新しく加わっている。科学的に探究する能力を育成するという意味では、これまでと同様であるものの、問題を見いだす、解決方法を立案する、探究の過程を振り返るといった探究の学習過程は、これまでの中学校理科の授業において丁寧に取り組む機会が少なかったのではないかと思われる。このため、これらの学習過程において、生徒に

考えさせるための授業展開を構築するという視点から授業や単元を再考する必要があると考える。

また、平成30年度全国学力・学習状況調査における結果の概要（国立教育政策研究所、2018）では、中学校理科においては、「実験や条件制御などにおいて、自分や他者の考えを検討して改善することに課題がある。」、「自然の事物・現象に含まれる要因を抽出して整理し、条件を制御して実験を計画することに課題がある。」といった分析結果が報告されている。今後は、このような新学習指導要領において重視される観点に基づく分析が多くなってくると考えられるため、生徒の課題分析として活用しながら、授業改善につなげていくことが肝要と考える。

【引用文献】

- 中央教育審議会（2016）『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）』
Retrieved from http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm
- 国立教育政策研究所（2018）『平成30年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）』
Retrieved from <http://www.nier.go.jp/18chousakekkahoukoku/18summary.pdf>
- 文部科学省（2018a）『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）』東山書房。
- 文部科学省（2018b）『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）解説 理科編』学校図書。

中学校理科 移行用補助教材の扱いについて

教育出版株式会社 編集局

2021年4月1日から全面实施される新中学校学習指導要領（平成29年3月31日公示）に円滑に移行するための措置として、中学校理科では、2019年4月1日から2021年3月31日までの間の移行期間中に、新課程の内容の一部を前倒しして実施することとなっている。

これに伴い、2019年度に指導内容が追加される第1学年及び2020年度に指導内容が追加される第1学年・第2学年の生徒に対して、教科書を補完する補助教材が配付予定である。この補助教材には、2019年度に、第1学年となる生徒に配付される「移行用補助教材 2019年度 第1学年用 2020年度 第2学年用」（2年間使用）と2020年度に、第1学年となる生徒に配付される「移行用補助教材 2020年度 第1学年用」の2冊がある。ここでは、その扱いについて示す。

【移行用補助教材 2019年度 第1学年用 2020年度 第2学年用】の扱い

◆移行用補助教材2019年度 第1学年（学習内容変更・補助教材使用部分のみ）

教科書 第1学年のもくじ	補助教材の使い方
単元2 光・音・力	
1章 光の性質	
2章 音の性質	
3章 力のはたらき	
3-1 力とその表し方	→ 教科書103ページのあとに、 補助教材2～4ページを使用して学習します。
3-3 圧力とは何か	→ 教科書113～117ページは第3学年で学習します。

◆移行用補助教材2020年度 第2学年（学習内容変更・補助教材使用部分のみ）

教科書 第2学年のもくじ	補助教材の使い方
単元2 電気の世界	
1章 静電気と電流	
1-2 電流の正体	→ 教科書67ページのあとに、 補助教材6ページを使用して学習します。
2章 電流と電圧	
3章 電流と磁界	
単元3 動物の世界と生物の変遷	
1章 生物の細胞と個体	
2章 動物の行動のしくみ	
3章 動物の生命維持のしくみ	
4章 動物のなかま	
5章 生物の変遷	
5-1 脊椎動物のなかまの変遷	→ 教科書182～186ページは第3学年で学習します。
5-2 生物の変遷と進化	→ 教科書187～193ページは第3学年で学習します。

【移行用補助教材 2020年度 第1学年用】の扱い

◆移行用補助教材2020年度 第1学年（学習内容変更・補助教材使用部分のみ）

教科書 第1学年のもくじ	補助教材の使い方
単元2 光・音・力 1章 光の性質 2章 音の性質 3章 力のはたらき 3-1 力とその表し方 3-3 圧力とは何か	→ 教科書103ページのあとに、 補助教材2～4ページ を使用して学習します。 → 教科書111～112、118～119ページは第2学年で学習します。 教科書113～117ページは第3学年で学習します。
単元3 植物の世界 1章 身のまわりの生物を観察しよう 2章 花のつくりとはたらき 3章 根・茎・葉と水のゆくえ 3-1 根や茎のつくりとはたらき 3-3 葉のつくりと水のゆくえ 4章 葉と日光 4-1 光合成のしくみ 4-3 光合成と呼吸 5章 植物のなかま 5-1 種子植物のなかま 5-2 種子をつくらない植物のなかま 5-3 植物の分類	→ 教科書151～154ページは第2学年で学習します。 ただし、教科書152ページ1～11行目の「根のつくり」は省略しません。 → 教科書155～160ページは第2学年で学習します。 ただし、教科書156ページ1～5行目の「葉のつくり」は省略しません。 → 教科書161～168ページは第2学年で学習します。 → 教科書169～171ページは第2学年で学習します。 → 教科書173ページ 図3 の茎、174ページ1行目の「維管束の分布」は省略します。 → 「維管束」は省略します。 → 教科書183ページのあとに、 補助教材6～23ページ を使用して学習します。 ただし、教科書181ページ 表1 の「維管束」は省略します。



移行用補助教材
2019年度 第1学年用
2020年度 第2学年用



移行用補助教材
2020年度 第1学年用

教育出版では、2冊の移行用補助教材に準拠した教師用指導書を1冊にまとめて発行している。

移行用補助教材を効果的に活用することができるように、学習の展開、本文の解説、観察・実験の解説を中心に構成するとともに、補充資料、評価問題といった、日頃の指導に役立つ内容も掲載しているので、ご活用いただきたい。

中学校理科 1・2補助教材
教師用指導書 2019・2020年度用
定価：2,500円（税別）

2019年度 年間学習指導計画案

●第1学年（週3時間）

配当月	単元名	時数	章名	時数
4月 9時間	1 身のまわりの物質	27	1章 物質の区別	7
			2章 気体の性質	6
5月 9時間			3章 水溶液の性質	6
			4章 物質の状態変化	7
6月 12時間	3 植物の世界	26	(ゆとり)	1
			1章 身のまわりの生物を観察しよう	4
7月 6時間			2章 花のつくりとはたらき	4
			3章 根・茎・葉と水のゆくえ	6
9月 12時間			4章 葉と日光	5
			5章 植物のなかま	5
10月 9時間	2 光・音・力	25	(ゆとり)	2
			1章 光の性質	8
11月 12時間			2章 音の性質	4
			3章 力のはたらき	9
			■力のつり合い【●付加】	3
12月 9時間			■水圧・浮力【×削除】	
	4 大地の成り立ちと変化	27	(ゆとり)	1
1月 9時間			1章 火山活動と火成岩	7
			2章 地震と大地の変化	8
2月 12時間			■自然の恵みと火山災害・地震災害【●付加】	2
			3章 大地の歴史と地層	9
3月 6時間	合計		(ゆとり)	1
			100時間 (ゆとり5時間)	

●第2学年（週4時間）

配当月	単元名	時数	
4月 12時間	1 化学変化と原子・分子	32	
5月 12時間			
6月 16時間			
7月 8時間	3 動物の世界と生物の変遷	42	
9月 16時間			
10月 12時間			
11月 16時間	2 電気の世界	36	
12月 12時間			
1月 12時間			
2月 16時間	4 気象とその変化	30	
3月 8時間			
合計			

※第2学年は移行にともなう

●第3学年（週4時間）

章名	時数
1章 分解と化合	7
2章 物質の成り立ち	7
3章 酸化と還元	9
4章 化学変化と物質の質量	6
(ゆとり)	3
1章 生物の細胞と個体	4
2章 動物の行動のしくみ	4
3章 動物の生命維持のしくみ	12
4章 動物のなかま	10
5章 生物の変遷	4
(ゆとり)	8
1章 静電気と電流	4
2章 電流と電圧	18
3章 電流と磁界	9
(ゆとり)	5
1章 空気中の水の変化	8
2章 天気の変化	8
3章 大気の動きと日本の気象	7
(ゆとり)	7
117時間 (ゆとり23時間)	

配当月	単元名	時数	章名	時数
4月 12時間	1 化学変化とイオン	24	1章 水溶液とイオン	8
5月 12時間			2章 電池とイオン 3章 酸・アルカリとイオン (ゆとり)	5 9 2
6月 16時間	4 生命の連続性	20	1章 生物の成長 2章 生物の殖え方 3章 遺伝の規則性 (ゆとり)	3 9 6 2
7月 8時間			5 地球と宇宙	24
9月 16時間	2 運動とエネルギー	32	1章 天体の1日の動き 2章 天体の1年の動き 3章 太陽と月 4章 太陽系と宇宙の広がり (ゆとり)	6 5 5 5 3
10月 12時間			3 エネルギーの変換と利用	12
11月 16時間	6 自然と人間	20	1章 エネルギーの移り変わり 2章 エネルギー資源とその利用 (ゆとり)	8 11 10 2
12月 12時間			1章 生物と環境 2章 人間と環境 3章 自然の恵みと災害 (ゆとり)	7 6 5 2
1月 12時間	7 科学・技術の発展と環境の保全	8	1章 科学・技術の発展 2章 科学・技術の利用と環境の保全	5 3
2月 16時間				
3月 8時間				
合計	126時間 (ゆとり14時間)			

学習内容・時数の変更なし。

※第3学年は移行にともなう学習内容・時数の変更なし。

2020年度 年間学習指導計画案

●第1学年（週3時間）

配当月	単元名	時数	章名	時数
4月 9時間	1 身のまわりの物質	28	1章 物質の区別	7
			2章 気体の性質	6
5月 9時間			3章 水溶液の性質	6
			4章 物質の状態変化	7
6月 12時間			(ゆとり)	2
	3 植物の世界	25	1章 身のまわりの生物を観察しよう	4
7月 6時間			2章 花のつくりとはたらき	4
			3章 根・茎・葉と水のゆくえ 【×一部を除き削除】	
9月 12時間			4章 葉と日光【×削除】	
			5章 植物のなかま【×一部削除】	5
			6章 動物のなかま【●付加】	10
10月 9時間			(ゆとり)	2
	2 光・音・力	24	1章 光の性質	8
			2章 音の性質	4
11月 12時間			3章 力のはたらき	7
			■力のつり合い【●付加】	3
			■圧力とは何か【×削除】	
12月 9時間			(ゆとり)	2
1月 9時間	4 大地の成り立ちと変化	28	1章 火山活動と火成岩	7
			2章 地震と大地の変化	8
2月 12時間			■自然の恵みと火山災害・地震災害【●付加】	2
			3章 大地の歴史と地層	9
3月 6時間			(ゆとり)	2
合計	97時間 (ゆとり8時間)			

●第2学年（週4時間）

配当月	単元名	時数	
4月 12時間	1 化学変化と 原子・分子	33	
5月 12時間			
6月 16時間			
7月 8時間	3 動物の世界と 生物の変遷	38	
9月 16時間			
10月 12時間			
11月 16時間			
12月 12時間	2 電気の世界	37	
1月 12時間			
2月 16時間			
3月 8時間			
合計	4 気象とその変化	32	

●第3学年（週4時間）

章名	時数
1章 分解と化合	7
2章 物質の成り立ち	7
3章 酸化と還元	9
4章 化学変化と物質の質量	6
(ゆとり)	4
1章 生物の細胞と個体	4
2章 動物の行動のしくみ	4
3章 動物の生命維持のしくみ	12
4章 動物のなかま	10
5章 生物の変遷【×削除】	
(ゆとり)	8
1章 静電気と電流	4
■放射線【●付加】	1
2章 電流と電圧	18
3章 電流と磁界	9
(ゆとり)	5
1章 空気中の水の変化	8
2章 天気の変化	8
3章 大気の動きと日本の気象	7
■自然の恵みと気象災害	2
【●付加】	
(ゆとり)	7
11 6時間 (ゆとり24時間)	

配当月	単元名	時数	章名	時数
4月 12時間	1 化学変化と イオン	24	1章 水溶液とイオン	8
5月 12時間			2章 電池とイオン	5
			3章 酸・アルカリとイオン	9
			(ゆとり)	2
6月 16時間	4 生命の連続性	20	1章 生物の成長	3
7月 8時間			2章 生物の殖え方	9
			3章 遺伝の規則性	6
			(ゆとり)	2
9月 16時間	5 地球と宇宙	24	1章 天体の 1 日の動き	6
10月 12時間			2章 天体の 1 年の動き	5
			3章 太陽と月	5
			4章 太陽系と宇宙の広がり	5
11月 16時間	2 運動と エネルギー	32	(ゆとり)	3
12月 12時間			1章 力の法則	8
			2章 力と運動	11
			3章 仕事とエネルギー	10
1月 12時間	3 エネルギーの 変換と利用	12	(ゆとり)	3
2月 16時間			1章 エネルギーの移り変わり	5
			2章 エネルギー資源とその利用	5
			(ゆとり)	2
3月 8時間	6 自然と人間	20	1章 生物と環境	7
4月 12時間			2章 人間と環境	6
			3章 自然の恵みと災害	5
			(ゆとり)	2
5月 12時間	7 科学・技術の発展と 環境の保全	8	1章 科学・技術の発展	5
6月 16時間			2章 科学・技術の利用と環境の保全	3
			(ゆとり)	2
			合計	1 2 6時間 (ゆとり 1 4 時間)

※第3学年は移行にともなう学習内容・時数の変更なし。



第17回

地球となかよし メッセージ

作品募集 (2019年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、
写真 (またはイラスト) にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に
参加賞が
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生 (数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2019年7月1日～9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品 テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境 や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交 流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会
◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
※協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>



教育出版

「地球となかよし」事務局

TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

入
選
作
品



地球を救う花

この地球を救う花は、まずお花なので二酸化炭素を吸って、酸素を出します。それに葉と花びらは太陽光パネルになっているので、発電も出来ます。さらに花びらの部分が風で回って、風力発電も出来る花です。

みんなが大好きな自然と地球が私達の何代も先の未来でも、愛されて続けるように、こんなお花が地球中にたくさん色鮮やかに咲くといいと思いました。(中学3年)

中学理科通信 リンク (2019年 春号) 2019年3月31日 発行

編集: 教育出版株式会社編集局

印刷: 大日本印刷株式会社

発行: 教育出版株式会社 代表者: 伊東千尋

発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (内容について)

URL <https://www.kyoiku-shuppan.co.jp> 03-3238-6901 (配送について)



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003	札幌市中央区北3条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F	TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011	函館市本町6-7 函館第一ビルディング3F	TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014	仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F	TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
中部支社	〒460-0011	名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F	TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
関西支社	〒541-0056	大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F	TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051	広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F	TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
四国支社	〒790-0004	松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F	TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
九州支社	〒812-0007	福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡 E室	TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155	那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F	TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」の通り、配付を許可されているものです。